

SOS 子どもの村
JAPAN

NEWS LETTER 02



【発行責任者】保科 清 【事務局】〒810-0054 福岡市中央区今川2-14-3 3F 【Tel】092-737-8655 【Fax】092-737-8665

NEWS
01

子どもの村福岡 ファミリーレポート

現在、子どもの村では、4つの育親家庭で15名の子どもたちが育っています

「また一つ成長」～村上家～

子ども5人と私の6人家族になって1年4か月。今年度は、中学校、小学校、幼稚園、療育園と4回の運動会・体育会がありました。

春、まず中学校の体育会。去年は7段ピラミッドの一番上が怖くて、下で支え役にかわった長男。今年は上から2段目。先生方の力強い支えにより、怖さと闘いながら見事成功！中学校最後の体育会をしっかり楽しみました。それから一週間後は小学校の運動会。長女も二女もEXILEのダンスをととても楽しそうに格好よく踊りました。

秋、二男と三男は、運動会が同日になってしまいました。SOS おばさんと手分けして二手に分かれ、私は幼稚園最後の運動会となる二男の所へ。二男も高いところが怖く、まずは村の庭で騎馬戦のための肩車に慣れること

から始めました。初めは号泣ものでしたが、あっという間に肩車を楽しめるようになりました。そして本番ではなんと2連勝！たくましいものです。三男もひよ子の格好で楽しんでいる姿を写真でみました。来年はみんなで三男の運動会へ行くのが今から楽しみです。



「月一登山」～山形家～

2014年の元旦の計は、今津の里山、毘沙門山に月に一回、家族三人で登ることに決めました。月に一回と目標を決めたのは、行きつけの歯医者さんで、年に100回の登山を目指している高齢の方に出会ったことでした。

11月の登山は、我が家の三人と村長を含め村の大人3人、子ども5人が加わり、標高177mの山頂を目指しました。山道の脇にイノシシの足跡を見つけ、びっくりしたり、秋の山野草を見つけて花摘みに興じたりと、子ども連



れの登山は、毎回、時間にとらわれない楽しい登山となります。一時間弱で頂上に着き、まだ11時になったばかりというのに、子ども達のお望みは、お弁当とおやつ。「早く、食べようよ。」「お腹すいた！」と、食が細いといつも育親さんが嘆いている子どもまでもが言い出して、早々とお昼に。お弁当が終わると、眼下に見える子どもの村に向かって、誰からともなく、「お～い、○○さ～ん」と、センターハウスに残って仕事をしているスタッフの名前を呼んでいました。

眼下に広がる大海原の博多湾、白砂青松の大原海岸、今津の田園に建つ子どもの村、この風景を子どもたちよ、いつまでも、忘れないでね。

お知らせ

支援会員感謝の会の開催

今回は、子どもの村の見学会も兼ねた会とさせていただきます。以下の日程で行いますので1/10(土)までにお申込みください(事前お申込み制となります)。

日時 2015年1月31日(土)13:30～15:00
場所 子どもの村センターハウス

NEWS
02

子どもの村のいま

継続的な活動から、新しい取り組みまで 2014年夏～秋

里親・里子リフレッシュキャンプ



リフレッシュキャンプ 沢登り

今年も8月28～30日、国立山口徳地青少年自然の家で2泊3日のキャンプを行いました。里親(ファミリーホーム養育補助者含む)29名、子ども47名の19家族が参加。キャンプ中に子どもたちと過ごすサポーターは54名と、総勢130名の一大キャンプとなりました。

初日は、グループをつくり、自然の家のスタッフが準備して下さった遊びプログラムのラリーです。ラリーポイントをクリアすると、2日目のファンタジープログラムに必要なアイテムを獲得できます。元気が必要な「スリッパ飛ばし」、知恵が必要な「言葉探しゲーム」などをクリアしながら、ラリーに参加したくない子どもは、サポーターと一緒に自由に遊びながら、ワクワク・ドキドキが満載のキャンプがスタートしました。

2日目は、子どもたち待望の「沢登り、沢遊び」です。朝から天気がぐずつき、気温も低かったものの、スリル満点の「どっぼん谷」で大人も子どもも元気に飛び込んでいました。夜のファンタジープログラム「ぴかぴかヤーマンを探せ! -真っくら暗やみクラクラだ〜く〜」では、街の中では体験できない夜の暗闇、そして暗闇に灯されるあかりをアドベンチャーたっぷりに楽しみました。

最後の朝は、オモイデ写真隊が撮ってくれた写真の上映会をみんなで鑑賞し、参加者全員で感動を共有しました。その後は家族ごとに「オモイデ新聞」をつくり、家族記念写真撮影と、あっという間にキャンプは幕を閉じました。

里親さんからは「里親同士でゆっくり話ができて良かった」「キャンプに来る前は荒れていた子が、仲間ができたことでキャンプ後に落ち着いた」などの感想をいただきました。子どもとひと時の間離れ、リラックスしながら、里親同士でゆっくりと語り合えたことだけではなく、キャンプに参加した子どもの生き生きとした様子や、受容的なサポーターに力をもらったことが感想から伝わってきました。

今回は、キャンプ運営費の寄付をWEB上で呼びかけ、目標の50万円を集めることができました。里親さんや子どもたちを応援する多くの皆さんに支えられたキャンプとなりました。

草の根 café

子どもの村のことを知って頂くために草の根 café を実施しています。できる限り多くの方に参加頂けるよう、平日や休日、それぞれの昼、夜などに開催しています。『家族と暮らせない子どもたちのこと』『里親について』『家庭で育つということ』など、テーマを変えながらリラックスした雰囲気でも語り合う会です。参加者の8割の方が初めて参加され、草の根 café の参加をきっかけに、ボランティア活動に参加される方もいます。運営する私たちとしても、皆さんからのご意見により、気づきや学びがとても多いです。

登録頂いた方には、メールでのご案内もさせていただきます。関心のある方は是非ご参加ください。『草の根 café』は出張もしていますので、地域の集まりや、会社などにも気軽にお呼び下さい。

SOS子どもの村広報誌『かぞく』発行

日本で初めての SOS 子どもの村が福岡市西区今津に生まれて、5年目を迎えました。私たちは、多くの方々に子どもの村の実践から見えてきたものを伝え、「子どもと家族」をめぐる現状や課題を共有しつつ、これからのあり方をともに考えていきたいと思ひます。多くの子どもと家族にとって新たな希望につながることを願って『かぞく』を発刊いたしました。是非、お読みください。

広報誌『かぞく』
特集 子どもにとっての家族
王貞治/鷺田清一/熊谷晋一郎/
横堀昌子
定価:500円(本体463円)
発行:SOS子どもの村 JAPAN



NEWS
03

子どもの村応援団

新日本製薬株式会社の取り組み

“地域社会に貢献できる企業でありたい”



広報室長の小川美千代さん

「みなさんのお肌と健康のかけつけ医のような存在でありたいと思っています」と小川さん

10月中旬、福岡市内のオフィスを訪問し、「子どもの村」の支援を始められたきっかけについて、新日本製薬株式会社広報室長の小川美千代さんにお話を伺いました。

「当社には『誰かのために、また社会や地域のために役立つこそ、企業の役割を果たせる』という創業当時から考えがあります。

団体が有名、無名というこ

とではなく、その活動趣旨に賛同しました。子どもの村のような実践を新日本製薬が独自で取り組もうとしても、とても出来ることではないので、社として協力できることをやらせていただいています。」と語られました。

新日本製薬は、医薬品や健康食品、化粧品などを扱う暮らしに密接した企業として、製品の製造や提供だけでなく、数多くの社会貢献活動もされている企業です。当法人でも、設立当初より企業支援会員として、また自動販売機設置などのご支援をいただいています。

NEWS
04

新スタッフから一言

子どもにとって安心できる存在に

“SOS おばさん” 伊豆丸沙織さん

今年6月から子どもの村へやってきました伊豆丸沙織です。自然いっぱい今津へ引っ越してきて、あっという間に約半年が経ちました。子どもたちと散歩をしていると、畑仕事をしている方や散歩をしている方が「今日は天気がいいねえ～」と声をかけてくださったり、子どもたちをトラクターに乗せてくださったりと、あたたかい地域の雰囲気と子どもたちに癒されながら、毎日を過ごしています。

実の親と暮らせない子どもたちがたくさんいること、日本ではその大半の子どもたちが施設で生活していることを知り、自分にも何かできないか？という思いから子どもの村の存在を知りました。約半年の間、“SOS おばさん”として子どもたちと関わる中で、子どもにとって家庭は、安心できる大人に愛情をたくさんもらいながら生活する大切な居場所だと改めて感じています。子どもたち一人一人が「生まれてきてよかった」と感じられるように、まずはそばにいる私が、子どもにとって安心できる存在になれるよう、私自身も子どもと一緒に成長しながら過ごしていきたいと思えます。



伊豆丸沙織(SOS おばさん)

こぼら通信

子どもの村ボランティア 片江友亮さん

子どもの村ボランティアネットワーク(通称「こぼら」)は、2012年4月にボランティアしやすい環境をつくろうと子どもの村のボランティアによって発足しました。私もボランティア登録したものの、住んでいる場所や仕事の都合でなかなか参加する機会がありませんでしたが、こぼらに参加してからFacebook やブログの記事投稿など、離れていてもできる仕事をいただきました。最近では、募金活動や各種行事に参加する機会も増え、ボランティア同士のつながりも密になったと感じます。

そんな「こぼら」が10月19日、子どもの村でバーベキューをしました。募金活動など村の外での活動がメインで実際に子どもたちや育親さんたちと会う機会がないボランティアの方々には有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。天気もよく、料理は美味しく最高の日でした！

子どもの村の方針に「家族と暮らせない子どもたちが、実の親に代わる『育親』によって守られ、地域に支えられながら安心して育てられる…」とあります。暖かい心で子どもたちを包み込める、そんな活動をやっていきたいと思えます。

☆こぼらの Facebook に「いいね！」お願いします。 <https://www.facebook.com/sosc.vn>



子どもの村でのバーベキュー

NEWS
05

広がる支援の輪

継続のご支援は、子どもの村の活動にとって大きな支えです

街頭募金活動実施レポート

子どもの村の街頭募金活動は、子どもの村のボランティア活動を支えてくださる『こぼら』さんにより行われています。今年は更に仲間が加わり、『中村学園の女子大、短大、女子高校、女子中学校、山陽高校』や『福岡雙葉高校』のインターアクトクラブの生徒さんたちが、募金活動に参加してくれました。4回の募金活動で、のべ35名の生徒さんが応援にかけつけ、大きな声で『子どもの村募金にご協力お願いします！』と暑い夏の日も頑張ってくれました。私たちにとっても大きな励みになりました。

募金活動をしていてとても嬉しいことは、『子どもの村だ。がんばって下さいね。』と声をかけられることが多くなったことです。一度通り過ぎてもわざわざ戻ってきてくださる方も多く、とても勇気づけられます。街で見かけることができましたら、是非お声かけください。



ヤフオクドームでの活動

天神駅での街頭募金活動の様子

チャリティー企画 ビオラコンサート

久留米市にお住まいの萬年さまが、子どもの村福岡のためにチャリティーコンサートを企画してくださいました。演奏者は、日本でトップクラスのヴィオラ奏者の植村理一氏によるソロリサイタルとなります。ピアノは、福岡在住の巢山千恵さんです。

音楽がお好きな萬年さまは、これまで約30年間クラシックコンサート企画を続けてこられました。今回は、コンサートチケット代金全額を『子どもの村福岡』に寄附してくださいます。

関心のある方がいらっしゃいましたら、チケットをお預かりしておりますので、子どもの村事務局(チケット専用ダイヤル)092-984-1328までご連絡ください。



2015年1月17日(土曜日) 15:00～
福岡銀行本店 FFG ホールにて開催

西日本シティ銀行・ゆうちょ銀行

「直接口座振替制度開始」

子どもの村では、ご希望月・金額での口座振替制度を導入しています。この度、西日本シティ銀行さま、ゆうちょ銀行さまのご支援により、両銀行での直接振替が可能になりました。これによって収納代行にかかっていた手数料が大幅に削減。皆さまから寄せられた大事なご寄附を、子どもたちが安心して育つ環境づくりに、より多く使うことができるようになりました。

口座振替制度のご利用をお待ちしています。口座振替についてのお問い合わせは下記事務局まで。

TEL:092-737-8655 メール:info@sosjapan.org

お知らせ

寄附金控除が受けられます

「認定 NPO 法人」である、SOS 子どもの村 JAPAN に寄附された方は、確定申告によって、寄附金控除を受けることができます。

1 年間のご寄附額から2000円を差し引いた額の最大50%が、還付されます。当法人が発行する領収証が必要となりますので、領収証が必要な方は、事務局までご連絡ください。

メールアドレス登録のご案内

一般公開研修会、草の根 café、その他のイベントなどについてタイムリーにご案内させていただきます。info@sosjapan.org まで、『メールニュース希望』と書いてメールをお送りください。メール登録するためのアドレスをご案内させていただきます。